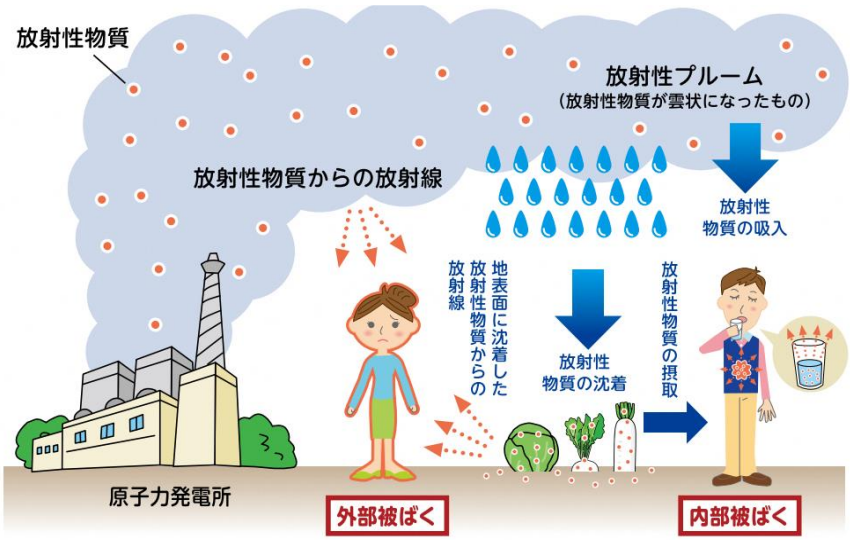
Pickup 原子力災害について

原子力発電所の事故により、発電所から放射性物質が外に漏れてしまうことをいいます。
原子力災害は、自然災害と比べ、主に次のような特徴があります。

放射性物質は、放射線を放出しながら雲のようなかたまりとなって風下へ広がります。

放射性物質や放射線は人間の五感で感じることができませんが、放射線測定器を用いることにより検知することができます。

放射線による被ばくから身を守るためには屋内退避や避難などの防護措置が必要となります。

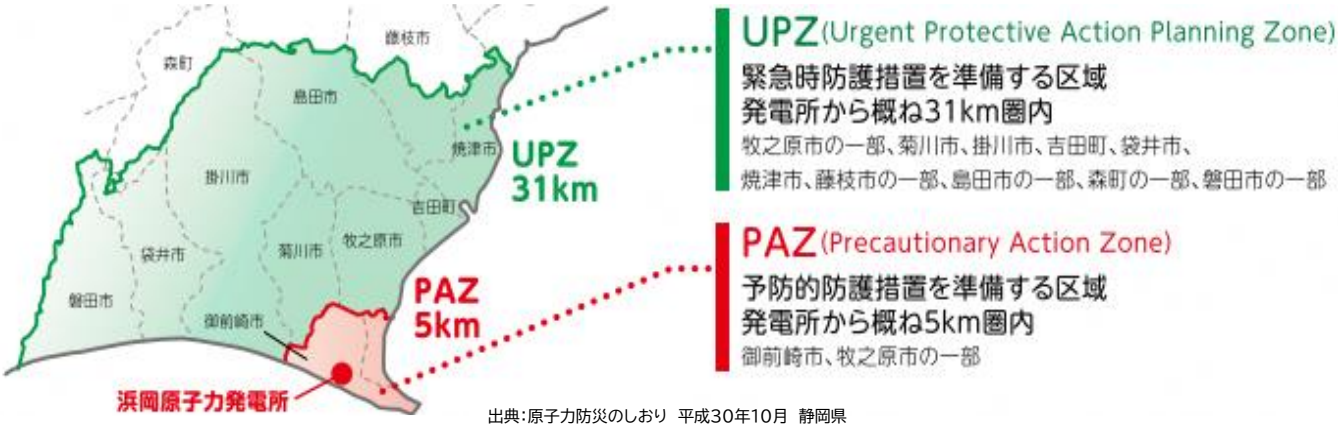


放射線を浴びることを被ばくといい、身体の外から被ばくする外部被ばくと、食べ物や呼吸によって身体の中から被ばくする内部被ばくがあります。

出典：静岡県原子力防災のしおり　平成30年10月

原子力災害対策重点区域

原子力災害が発生した場合において、住民等に対する被ばくの防護措置を短期間で効率的に行うためには、あらかじめ異常事態の発生を仮定し、施設の特性等を踏まえて、その影響の及ぶ可能性がある区域を定めた上で、重点的に原子力災害に特有な対策を講じておくことが必要です。原子力災害対策を重点的に実施すべき地域として、県では中部電力㈱浜岡原子力発電所から概ね半径31km圏内の地域を設定しています。



出典:原子力防災のしおり　平成30年10月　静岡県

退避や避難の考え方

放射性物資を扱う施設を扱う施設で事故が起こり、周辺への影響が心配されるときには、市役所、あるいは県や国から屋内避難や市外への避難などの指示が出されます。周辺のデマなどに惑わされず、混乱しないようにすることが大切です。テレビやラジオなどで正確な情報を得ること、家族や先生などの指示をよく聞き、落ち着いて行動することが大切です。事故後の状況に応じて、指示の内容も変わるもので注意が必要です。